

| | |
|--------------------|--|
| 科目名称 | アロマセラピー |
| 授業コード | BH207 |
| 英語名称 | Aroma therapy 1 |
| 学期 | 2024年度前期 |
| 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 二神 弘子 |
| 記入不要 ナンバリングコード | |
| 授業の概要 | アロマセラピーは、精油の持つ香りと効能によって、健康の維持・増進効果を期待する補完代替療法のひとつである。正しい知識をもって活用すれば、心や身体に起こった不調の改善に役立てることができる。本講義では、科学的に解明されている精油の効能、アロマセラピーが心身に及ぼす影響、および実践的に活用するための知識と技術について学ぶ。アロマセラピーの基礎として、理念、歴史、エッセンシャルオイルの製造・保管・科学的及び治療的特性、実際の使用方法について理解を深める。 |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | アロマセラピーが心身に及ぼす影響や実践方法について、あんまマッサージ指圧師でありアロマセラピーの実務経験のある教員が講義する。 |
| 到達目標 | <p>・ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師として、他者と協同して問題を解決するための能力を身につけている」、「人々の健康および柔道整復の発展に貢献しうる主体的な学修能力を身につけている」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「より広い保健医療福祉分野の知識・技術を学ぶ」ことを目的とする。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精油の効能とその利用法を理解し、身近な生活に応用することができる。 ・アロマセラピーについて理解し、補完代替療法として臨床で実践することができる。 |
| 計画・内容 | <p>1) ガイダンス、アロマセラピー実施者としての倫理</p> <p>2) 精油の基礎知識、アロマセラピー関連法律</p> <p>演習(1) 香りの個人差を理解しよう</p> <p>3) 精油の製造方法、精油プロフィール(1)</p> <p>演習(2) いろいろな香りを体験しよう</p> <p>4) アロマセラピーの実際、精油プロフィール(2)</p> <p>演習(3) 生活に香りを取りいれよう</p> <p>5) 精油が心身に及ぼす作用と経路、精油プロフィール(3)</p> <p>演習(4) 精油が自律神経系へ及ぼす影響を実験的に体験しよう1</p> <p>6) 演習(5) 精油が自律神経系へ及ぼす影響を実験的に体験しよう2</p> <p>7) 香りの特徴とブレンド、精油プロフィール(4)</p> <p>演習(6) 相性のいい香りをみつけよう</p> <p>8) 基材、精油の作用</p> <p>演習(7) 使用目的にあった精油を選ぼう<生活改善>、実習ガイダンス</p> <p>9) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(1)</p> <p>10) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(2)</p> <p>11) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(3)</p> |

| | |
|------------------------------------|---|
| 計画・内容 | 12) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(4) 13) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(5) 14) アロマオイルケア実技実習・下肢後面(6) 15) まとめ |
| 授業の進め方 | ・講義と演習 第1回から第8回は配布資料、映像資料を利用し講義と演習を行う。第9回から14回はアロマオイルを使用した実技実習を行う。演習や実習では実際にエッセンシャルオイルの香りを嗅ぎながら授業を進めるほか、エッセンシャルオイルを利用する方法について実践する。また、精油がヒトの心と身体にどのような影響を及ぼすのかについて、自律神経系の指標を用い実験的に体験することで理解を深める。演習、実習では当日の用具等の準備、または片づけ、清掃などを全員で行う。 |
| 能動的な学びの実施 | ・毎回の講義に対して課題レポートを提出することで、授業回ごとに理解度を確認する。 |
| 授業時間外の学修 | 予習：指示がある場合はそれに従う。指示のない場合は講義の内容またはキーワードに関して基本的な理解を得ておくこと。(30時間) 復習：配布資料をまとめて理解を深める。アロマセラピーを実践する。(30時間) |
| 教科書・参考書 | 教科書：特になし。資料を配布する。 参考書：アロマセラピー検定 公式テキスト1・2級 |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： ・演習課題(50%)、実技試験(50%)を総合的に評価する。 ・評価の条件は全体の4/5以上の出席とする。 ガイダンスに沿った準備のないもの、受講態度の不良なものは受講を認めず欠席とする |
| 課題等に対するフィードバック | ・講義中に提出された課題レポートはコメントを付して返却する他、授業に反映させる |
| オフィスアワー | CampusSquare参照 |
| 留意事項 | ・人体に対して精油が影響を及ぼす機序は生理学、精油の構造は化学と密接なので関連付けて学習することが望ましい。 ・シラパスの変更については、その都度講義内で連絡する。 ・アロマセラピーの基本についての講義となるので、全ての講義を受講することが望ましい。 |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | 授業の進め方 講義と演習：配布資料、映像資料を利用し講義と課題提出を行う。 成績評価方法と基準 成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： (1) 第1回～第14回の課題レポート：70%(うち教員評価35%、課題の取り組みに関する自己評価35%) (2) 総括試験：30% 試験は感染症の状況によりレポート課題に切り替える場合がある。 |

| | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | 最終評価の条件はの2/3以上の課題提出とする。 |
|------------------------------------|-------------------------|